

タイヤの日常点検について

1. 空気圧

□点検ハンマーの打音点検、接地部の“たわみ“の状態を目視で点検

OK : ポーン、ポーンと高い音が響く / NG : ドン、ドンと音が低く響かない

※長距離走行や高速走行を行う場合には、タイヤゲージを用いて点検



2. 取付状態

□ホイールナットの脱落、ボルトの折損等がないか目視で確認

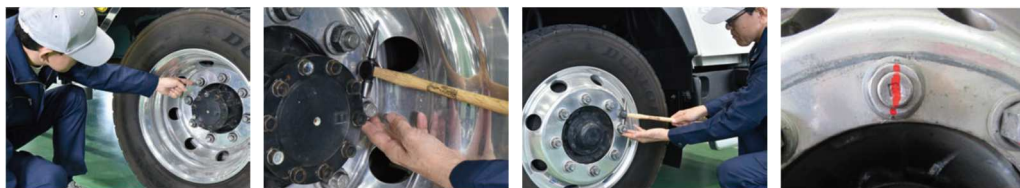
□ホイールボルト付近にさび汁が出た痕跡がないか目視で確認

□ホイールナットから突き出しているボルトの長さに不揃いがないか目視で確認

□ホイールボルトの折損、緩み等がないか、点検ハンマーを使用して点検

※ISO 方式の場合、マーキングやインジケータを目視で点検でも可

(ただし、ボルト、ナットを一体で覆うインジケータは、取外して点検すること)



3. 亀裂、損傷

□タイヤ全周に亀裂や損傷がないか、釘、石、その他の異物がないか目視で点検

□ダブルタイヤは、タイヤとタイヤの間に異物が挟まっていないか手などで点検

4. 異常な摩耗

□タイヤの接地面に異常な摩耗がないか目視で点検

5. 溝の深さ(走行距離や運行時の状態等から判断した適切な時期に実施)

□溝の深さに不足がないかスリップサイン等で点検

トルクレンチの使用/保管/保守方法

➤ 正しい使用方法

1. 正しい力点を持って使用する

トルクは「力の大きさ×回転軸から力点までの距離」で決まります。そのため、トルクレンチは定められた力点(多くはグリップ中央)に力をかけることが重要です。位置がずれると正確なトルクが得られず、適正な締結ができません。



2. 締め過ぎに注意する

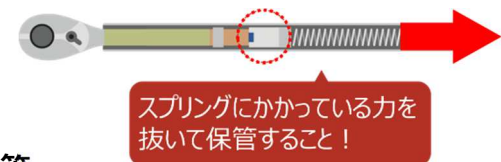
切替レバーを確実に操作し、静かにゆっくり締め付ける。「カチン」となったら力を緩める。勢いや弾みをつけた締め付けや、全体重をかけた締め付けは、オーバートルク(締め過ぎ)になります。



➤ 保管方法

1. 測定単位の最低値で保管

保管する際は、目標トルクの設定を測定範囲の最低値にセットして、トルクレンチ内部のスプリングの劣化を防止することが重要。



2. 高温多湿やほこりを避けて保管

錆やほこりによる測定精度の低下を防止するため、乾燥したキレイな場所に保管する。また、使用する前に異常がないか確認する。

➤ 保守(精度確認)

年1回以上の精度確認を実施

トルクレンチは使用していると測定精度に狂いが生じる可能性があります。測定精度を維持するため、年1回以上を目処に校正を行いましょう。